



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月6日

上場会社名 株式会社ハークスレイ 上場取引所 東
 コード番号 7561 URL https://www.hurxley.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 青木 達也
 問合せ先責任者 (役職名) 総務部長 (氏名) 中野 雅哉 TEL 06-6376-8088
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	12,893	20.9	905	△14.3	386	△44.8	345	△51.8
2025年3月期第1四半期	10,664	△4.2	1,056	35.2	700	49.9	717	17.1

(注) EBITDA 2026年3月期第1四半期：営業利益386+減価償却費371+のれん償却費147
 2025年3月期第1四半期：営業利益700+減価償却費313+のれん償却費42

	親会社株主に帰属する 四半期純利益		1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	百万円	%	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	156	△67.6	8.45	—
2025年3月期第1四半期	482	△6.4	26.09	26.05

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期：100百万円 (△80.8%) 2025年3月期第1四半期：524百万円 (14.9%)

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
2026年3月期第1四半期	73,143		24,459		33.2
2025年3月期	73,427		24,662		33.6

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期：24,312百万円 2025年3月期：24,651百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	13.00	—	13.00	26.00
2026年3月期	—				
2026年3月期（予想）		14.00	—	14.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	25,000	18.4	500	△51.4	240	△77.6	60	△90.3	3.25
通期	52,700	16.7	1,900	△1.6	1,600	△23.2	1,000	△17.0	54.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期1Q	19,050,064株	2025年3月期	19,050,064株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	558,930株	2025年3月期	558,930株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期1Q	18,491,134株	2025年3月期1Q	18,475,214株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

金利上昇懸念の中で、不動産価格への影響及び経済状況との兼ね合いで、店舗アセット&ソリューション事業の不動産販売については、売上高及び営業利益をはじめとする各段階利益に含んでおりません。

不動産販売が決定し業績への影響が明らかになった時点で、開示基準に従い適時開示いたします。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（中期的な経営目標の策定に関するお知らせ）

2024年6月3日に公表しております。当社IRニュースをご参照ください。

https://www.hurxley.co.jp/ir_information/news/

（資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応）

2024年6月3日に公表し、2025年5月14日に経過のご報告をしております。当社IRニュースをご参照ください。

https://www.hurxley.co.jp/ir_information/news/

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
(セグメント情報等の注記)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、堅調に推移するインバウンド需要や雇用・所得環境の改善により緩やかな回復基調がみられる一方で、アメリカの関税政策の影響により景気減速懸念や継続的な物価上昇による生活防衛意識の高まりにより、先行きについては不透明な状況が続いております。

当第1四半期連結累計期間の連結業績及びセグメント業績の概要は以下になります。

- ✓ 売上・営業利益は順調に進捗
- ✓ 第1四半期としては過去10年間で最高の売上高
- ✓ 中食事業は増収増益となり黒字転換する
- ✓ 成長戦略の柱である物流・食品加工事業は、ホソヤコーポレーションの連結取り込みにより売上高は前年同期比52.0%増と成長。営業利益はのれん償却費の負担もあり減益

こうした経営環境の下、売上高は12,893百万円（前年同期比20.9%増）、内、中食事業は4,426百万円（前年同期比7.8%増）、成長戦略の柱である物流・食品加工事業は6,053百万円（前年同期比52.0%増）となりました。また、EBITDAは905百万円（前年同期比14.3%減）となりました。

(連結業績)

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期実績	2026年3月期 第1四半期		
		実績	前年同期差	前年同期比
売上高	10,664	12,893	+2,228	+20.9%
EBITDA	1,056	905	△151	△14.3%
営業利益	700	386	△313	△44.8%
経常利益	717	345	△371	△51.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	482	156	△325	△67.6%

(前年同期差の主な要因)

- ・売上高：2024年12月にグループ化したホソヤコーポレーション（物流・食品加工事業）の連結取り込み
- ・経常利益：テナント入れ替え収入の剥落、のれん償却費及び支払利息の増加
- ・親会社株主に帰属する四半期純利益：のれん償却費増加にかかる法人税等負担額の増加

(セグメント別売上高)

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期実績	2026年3月期 第1四半期		
		実績	前年同期差	前年同期比
中食事業	4,106	4,426	+319	+7.8%
店舗アセット& ソリューション事業	3,171	3,025	△146	△4.6%
物流・食品加工事業	3,982	6,053	+2,070	+52.0%
その他	228	243	+15	+6.6%
計	11,490	13,749	+2,259	+19.7%
調整額（消去及び全社）	△825	△856	△30	—
計	10,664	12,893	+2,228	+20.9%

(セグメント別営業利益)

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期実績	2026年3月期 第1四半期		
		実績	前年同期差	前年同期比
中食事業	△34	92	+126	—
店舗アセット& ソリューション事業	616	387	△229	△37.2%
物流・食品加工事業	304	136	△167	△55.1%
その他	228	243	+15	+6.6%
計	1,114	859	△255	△22.9%
調整額（消去及び全社）	△414	△472	△58	—
計	700	386	△313	△44.8%

(店舗数推移)

① 中食事業 (ほっかほっか亭)

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期
既存店売上前年同期比 (期中平均)	103.2%	102.7%
店舗数(店) (6月末)	841	794

② 店舗アセット&ソリューション事業

(単位:店)

	2024年6月末	2025年3月末	2025年6月末
店舗リース取引店舗数	837	845	852
不動産管理テナント数	146	170	172
稼働店舗数	983	1,015	1,024

① 中食事業

<ほっかほっか亭部門>

ほっかほっか亭部門では創業以来の「真心を込めたお弁当」をはじめ惣菜の販売を行っております。

料理研究家でありYouTuberのリュウジ氏とコラボした商品「バズベントウ」シリーズを2025年3月より発売し、米価高騰対策の麺を主食とした西日本エリアでの「とりめし焼きそば」などの焼きそばシリーズ、東日本エリアでは「ナポリタン」シリーズを展開し、地上波情報番組でも多く取り上げていただきました。2025年4月より協賛・出展しております大阪・関西万博では、主力商品である「ワンハンドBENTO」シリーズの販売が好調に推移し、2025年6月下旬に累計販売7万食を突破いたしました。2025年6月にはスペシャルシリーズの大リニューアルを実施し、一般公募で集まっていた「スペシャルメンバー」と共に先行試食会を行いました。YouTuberの大食い主婦もぐちゃん氏もスペシャルメンバーとして全商品を試食し、レビュー動画を公開いただきました。これらの取り組みにより、メディア露出が大幅に増加し、各種SNSでは多くのユーザー様から口コミ投稿をいただいております。

これらの結果、既存店舗では前年同期比で2.7%売上増となりました。

今後については、引き続きおいしいものをお腹いっぱい楽しんでいただくという想いのもと、魅力的なお弁当の開発・リニューアルを進めてまいります。店舗については、他社様とのコラボレーション出店やコインランドリーの併設を含め、計画的な出退店を行ってまいります。

<ケータリング部門及びセレモニー部門>

ケータリング部門及びセレモニー部門では、パーティー・イベント需要にお応えする仕出し料理の展開を行っております。

2025年4月に業務提携契約を締結しました貸会議室運営大手の株式会社ティーケーピー様からのパーティー・お弁当の受注件数が増加しております。また、前年に行ったECサイト整備や、強化した営業部門により新規顧客も獲得しており、大型イベントホールでの案件も受注いたしました。

引き続き株式会社ティーケーピー様との連携を深め、対応エリアの拡大・受注件数の増加を推進いたします。併せて、お客様のニーズに合わせた価値提供を推進し、企業・官公庁・貸会議室・ホテル等様々なお客様へと展開を進めてまいります。

これらの結果、売上高の増加・利益率の改善により、中食事業の業績は売上高44億26百万円（前年同四半期比7.8%増）、営業利益92百万円（前年同四半期は営業損失34百万円）と前年同四半期から黒字転換となりました。

② 店舗アセット&ソリューション事業

<店舗ビジネス部門>

店舗ビジネス部門では、店舗リースなど、飲食店等の店舗事業者様向けソリューションの提供を行っております。

既存お客様店舗の退店動向の把握及びSNS媒体の活用による退店情報入手などにより、出店需要の高い優良物件獲得を進めたことにより、店舗リース取引店舗数は前連結会計年度末より7店純増し、852店となりました。また、契約継続率も引き続き高い水準で推移いたしました。

お客様の業種・業態を問わず、店舗不動産ビジネス・人材採用ソリューションなど他事業との連携により、お客様の多店舗展開の包括的支援の推進をしております。

<店舗不動産ビジネス部門>

店舗不動産ビジネス部門では、稼働率向上・工事等による商業用不動産のバリューアップ、不動産のファンド組成などを行っております。

不動産管理テナント数は前連結会計年度末より2店純増し172店となり、所有不動産の棟数は20棟、不動産アセットマネジメント対象の棟数は7棟となりました。なお、店舗不動産の新規取得・新規用地取得、販売実績はありませんでした。

足元では、当社グループが用地仕入・企画・設計・施工・テナント誘致・管理まで一貫して行う「TRUNK」ブランドの6棟目となる秋葉原の商業ビル「TRUNK秋葉原」(JR秋葉原駅徒歩5分)が竣工し、2025年夏にグランドオープンとなります。

<人材採用ソリューション部門>

人材採用ソリューション部門では、若手ハイキャリア人材向け人材紹介サービス及び外国人次世代リーダー向けに、特定技能ビザ取得に必要な学びから日本での就労後のライフサポートまで一貫した支援を行っております。

特定技能外国人は、日本国内のサービス業における人材不足問題を解決し得る存在であり、新規出店段階に移行していく中で店舗リース取引先からの期待は大きく、店舗ビジネスと融合したサービスを提供できるよう、店長クラスになり得る特定技能2号育成支援の整備に取り組んでおります。また、コンサルティング業界の求人需要が高まるなか、国内ハイクラス転職の分野でも採用支援実績を積み上げています。

<IT経営ソリューション部門>

IT経営ソリューション部門では、製菓・ベーカリー事業者様向けに、業界シェアトップのPOSレジシステム等を展開しております。

店舗運営業務の改善や、売上・顧客データ分析による販売促進・経営改善ソリューションとして、POSレジシステム「ninapos」及びオンラインカートシステム「ニナカート」等を開発・提供しております。多店舗展開を行うベーカリー様への導入を契機に、2025年6月に全国的に注目度の高いベーカリー様への導入が決定し、ベーカリー業界への更なる展開を進めております。また、POSデータを活用した店舗運営コンサルティングサービスの拡充も進めており、市場開拓と顧客満足度の向上に取り組んでおります。

<パーティー・イベント用品レンタル部門>

パーティー・イベント用品レンタル部門では、イベント時のホテル・レストラン等のお客様へ食器や什器等のレンタルサービスを提供しております。

足元ではパーティー・イベント需要は高まっており、売上は順調に推移しております。

これらの結果、稼働店舗数増加によりストック収入は増加いたしました。前年同四半期に生じたテナント入れ替えによる収入の剥落により、店舗アセット&ソリューション事業の業績は売上高30億25百万円(前年同四半期比4.6%減)、営業利益3億87百万円(同37.2%減)となりました。

③ 物流・食品加工事業

＜食品加工部門＞

食品加工部門では、中華惣菜の製造・販売を行っております。

売上については、ホソヤコーポレーションの「贅沢焼売」等定番商品の販売が引き続き安定して推移いたしました。2025年春に新発売したNB（ナショナルブランド）商品「四川風麻辣餃子」はご好評いただいております。また、地方エリアにおける量販店向けOEM受注も決定し、新たな売上の創出に寄与いたしました。

価格見直しによる効果や「四川風麻辣餃子」の売上伸長が期待されるなど、引き続き売上伸長及び利益改善を図ってまいります。

＜物流部門・カミッサリー部門＞

物流部門・カミッサリー部門ではほっかほっか亭店舗へ納入する食品の加工や、スーパー・コンビニエンスストア等からのOEM製造受託をはじめとしたカミッサリーと、商材や食材等の配送を担う物流サービスを提供しております。

物流部門では食品輸送のみならず新たな物流案件の獲得とエリア拡大を進めてまいりました。

カミッサリー部門では、生産機器の一部入替を実施し生産能力・人時生産性が向上いたしました。2025年5月には外販向け商材の生産加工数が過去最高を記録する等、OEM生産を中心に順調に実績を伸ばしております。今後も販売エリア・OEM生産拡大を推進してまいります。

＜菓子製造部門＞

菓子製造部門では、ナッツ・ドライフルーツ等の菓子類の製造・販売を行っております。

稲葉ピーナツでは「クレイジーソルトナッツ」等の主要商品の販売が引き続き安定して推移し、大手スーパー・ドラッグストアを中心に導入店舗数は順調に増加いたしました。ナッツ系商品は原価高による値上げトレンドとなっており、厳しい市況ではあるものの「クレイジーソルトナッツ」「アーモンドフィッシュ」は好調で、今後も売上増加を見込んでおります。谷貝食品では、新商品「ほしいもビールフレック」の売れ行きが好調に推移いたしました。「千葉県産落花生」、「茨城県産干し芋」に続いて、将来の主力商品となることが期待されます。

稲葉ピーナツでは開発を進めていた新商品の発売も決定し、順調に納入が決まっており売上に寄与すると見込んでおります。利益面においては輸入原料のコスト上昇を見込んでおり、利益率確保に向けて販売価格の見直しを随時行う想定です。谷貝食品では、2025年7月にキャラクタータイアップ商品の販売が決定しており、販売促進に注力いたします。

これらの結果、2024年12月にグループ化したホソヤコーポレーションの連結により売上高は増加しましたが、ホソヤコーポレーションののれん償却費及び、原材料コスト上昇による売上総利益率低下により、物流・食品加工事業の業績は、売上高60億53百万円（前年同四半期比52.0%増）、営業利益136百万円（同55.1%減）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は731億43百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億84百万円減少しました。これは主に借入金の返済、期末配当金の支払い及び納税に伴う現金及び預金の減少によるものです。

負債合計は486億83百万円となり前連結会計年度末に比べ81百万円減少しました。これは主に借入金、未払法人税等、未払消費税等の減少によるものです。

純資産は244億59百万円となり前連結会計年度末に比べ2億2百万円減少しました。これは主に期末配当金の支払い及び親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2025年5月14日の「2025年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、当期の連結業績予想値には、店舗アセット&ソリューション事業の不動産販売については売上高及び営業利益をはじめとする各段階利益に含んでおりません。不動産販売が決定し業績への影響が明らかになった時点で、開示基準に従い適時開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,338	12,145
受取手形、売掛金及び契約資産	3,827	3,693
商品及び製品	10,727	10,613
原材料及び貯蔵品	849	882
その他	1,846	1,971
貸倒引当金	△32	△24
流動資産合計	29,557	29,282
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,305	10,427
機械装置及び運搬具（純額）	1,475	1,429
工具、器具及び備品（純額）	221	230
土地	12,573	12,573
リース資産（純額）	101	101
建設仮勘定	201	159
有形固定資産合計	24,879	24,922
無形固定資産		
借地権	3,463	3,463
のれん	6,470	6,322
その他	239	239
無形固定資産合計	10,174	10,025
投資その他の資産		
投資有価証券	3,244	3,163
長期貸付金	53	51
敷金及び保証金	4,933	4,887
繰延税金資産	185	424
長期未収入金	177	175
退職給付に係る資産	138	138
その他	297	281
貸倒引当金	△211	△210
投資その他の資産合計	8,816	8,912
固定資産合計	43,870	43,860
資産合計	73,427	73,143

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,376	3,292
1年内償還予定の社債	14	14
短期借入金	4,233	4,333
1年内返済予定の長期借入金	4,536	4,627
未払金	1,161	852
未払法人税等	224	172
未払消費税等	304	173
賞与引当金	290	403
その他	2,744	2,982
流動負債合計	16,886	16,853
固定負債		
社債	37	30
長期借入金	26,484	26,376
長期預り保証金	4,353	4,335
繰延税金負債	88	216
退職給付に係る負債	41	46
資産除去債務	554	515
その他	320	309
固定負債合計	31,878	31,829
負債合計	48,765	48,683
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,036	4,036
資本剰余金	1,902	1,934
利益剰余金	18,916	18,606
自己株式	△380	△380
株主資本合計	24,475	24,195
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	176	116
その他の包括利益累計額合計	176	116
新株予約権	4	5
非支配株主持分	6	142
純資産合計	24,662	24,459
負債純資産合計	73,427	73,143

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	10,664	12,893
売上原価	6,981	8,892
売上総利益	3,682	4,000
販売費及び一般管理費	2,982	3,614
営業利益	700	386
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	30	18
受取手数料	15	18
業務委託契約解約益	22	8
持分法による投資利益	—	7
その他	23	26
営業外収益合計	92	80
営業外費用		
支払利息	35	88
業務委託契約解約損	4	—
支払手数料	8	13
持分法による投資損失	23	—
その他	3	18
営業外費用合計	74	120
経常利益	717	345
特別利益		
固定資産売却益	—	0
受取補償金	55	11
その他	0	—
特別利益合計	55	12
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	4	10
支払補償金	44	—
特別損失合計	48	11
税金等調整前四半期純利益	724	347
法人税、住民税及び事業税	205	274
法人税等調整額	37	△87
法人税等合計	242	186
四半期純利益	482	160
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	482	156

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	482	160
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	42	△60
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	42	△60
四半期包括利益	524	100
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	524	△42
非支配株主に係る四半期包括利益	—	142

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	313百万円	371百万円
のれんの償却額	42	147

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	中食事業	店舗アセット &ソリューション事業	物流・食品 加工事業	計		
売上高						
一時点で移転される財	4,086	1,762	3,498	9,347	—	9,347
一定の期間にわたり移転される財	7	—	—	7	—	7
顧客との契約から生じる収益	4,094	1,762	3,498	9,354	—	9,354
その他の収益	1	1,303	3	1,309	—	1,309
外部顧客への売上高	4,096	3,066	3,502	10,664	—	10,664
セグメント間の内部売上高又は振替高	10	105	480	597	228	825
計	4,106	3,171	3,982	11,261	228	11,490
セグメント利益又は損失 (△)	△34	616	304	886	228	1,114

	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
売上高		
一時点で移転される財	—	9,347
一定の期間にわたり移転される財	—	7
顧客との契約から生じる収益	—	9,354
その他の収益	—	1,309
外部顧客への売上高	—	10,664
セグメント間の内部売上高又は振替高	△825	—
計	△825	10,664
セグメント利益又は損失 (△)	△414	700

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ支援事業であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△414百万円には、セグメント間取引消去△13百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△401百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自2025年4月1日至2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	中食事業	店舗アセット &ソリューション事業	物流・食品 加工事業	計		
売上高						
一時点で移転される財	4,311	1,372	5,618	11,302	—	11,302
一定の期間にわたり移転される財	9	—	—	9	—	9
顧客との契約から生じる収益	4,321	1,372	5,618	11,311	—	11,311
その他の収益	6	1,572	3	1,581	—	1,581
外部顧客への売上高	4,327	2,945	5,621	12,893	—	12,893
セグメント間の内部売上高又は振替高	99	80	432	612	243	856
計	4,426	3,025	6,053	13,505	243	13,749
セグメント利益	92	387	136	615	243	859

	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
売上高		
一時点で移転される財	—	11,302
一定の期間にわたり移転される財	—	9
顧客との契約から生じる収益	—	11,311
その他の収益	—	1,581
外部顧客への売上高	—	12,893
セグメント間の内部売上高又は振替高	△856	—
計	△856	12,893
セグメント利益	△472	386

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ支援事業であります。

2. セグメント利益の調整額△472百万円には、セグメント間取引消去217百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△690百万円が含まれております。

3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。